

1. 緊急対応分科会がめざしたもの

1.1 目的

緊急対応分科会では、地震発生からの最初の100日間を対象として、時間経過に応じて災害対応がどのように変化していくかを総合的に検討することを目的とした。第1年度は、被災者の生死を分けることになる地震発生から最初の72時間だけに的を絞って検討した。第2年度は、ライフラインの機能停止と避難所に代表される地震発生後の最初の1ヵ月に焦点をあてた。この時期は、不自由な生活環境のもとで「被災地社会」というべきある種の原始共産制社会が出現した時期である。第3年度はその後の地域内の復興が始まり、経済原則が復活し、被災者間の格差が広がる時期に焦点をあてている。災害対応にはさまざまな活動が含まれる。命をまもるための対策、生き残った人々の日常生活を安定させるための対策、災害によって破壊された地域と被災者の人生を再建するための対策、さらにそうした各種対策を円滑に行なうための後方支援や総合調整が含まれる。ここにあげた対策には災害発生の最初の100日には顕在化しないものも多く含まれる。しかし、すべての対策は最初の100日にその初動期がある。初動期とそれに続く展開期を上手に運営することが、結果的に効果的な災害対策につながる。こうした確信から、本分科会では緊急対応を時間的な限定と解釈し、研究対象としては災害対応全般を扱うことにした。

阪神淡路大震災は未曾有の災害であり、社会のすべての側面にその影響が及んだ。それを受けてさまざまな領域でこの震災に関する調査研究が行なわれている。本分科会もそうした試みの一つであり、けっして震災の全貌を捕らえたとは言いがたい。そこで、本分科会で調査研究する意義として、客観的な統計データを整理することよりも、災害の当事者である被災者および災害担当者が震災という環境移行期を乗り越えたプロセスについて、当事者がどのように理解しているかをできる限り体系化することを目指した。震災の現実をどのように認識し、そのときどのように感じ、どのような行動を選んだかを当事者自身の言葉を使ってまとめることを試みた。

1.2 委員構成

分科会委員は当初25名で出発したが、その後も関連分野の委員を追加し最終的には37名の委員会に成長した。この3年間にのべ43人の委員にご協力をいただいた。その他にも委員会当日にはオブザーバーの方にも参加をいただいたので、実際にはこれ以上の方のご協力をいただいた。委員会構成は以下に示す通りである。

委員長

林 春男 京都大学防災研究所

副委員長

小林正美 京都大学工学研究科

連絡幹事

宮野道雄 大阪市立大学生活科学部

幹事

甲斐達朗 大阪府立千里救命救急センター

瀬尾 理 大阪市消防局

中川 大 京都大学工学研究科

委員

秋山智久 大阪市立大学（平成7年度）

渥美公秀 神戸大学文学部（現大阪大学人間科学部）

安藤嘉茂 神戸市震災復興本部

池島賢治 大阪ガス

大森勝之 日本電信電話株式会社

大森康正 京都市消防局

河田恵昭 京都大学防災研究所

北坂一三 近畿電波通信管理局

北本政行 国土庁防防災局防災調整課

小村隆史 防衛庁防衛研究所
 重川希志依 都市防災研究所
 神野勝三郎 郵政省通信政策局（平成7年度）
 新福尚隆 神戸大学医学部（平成7年度）
 高橋章子 大阪大学医学部
 長尾清子 日本赤十字社大阪支部（平成7年度）
 河相憲良 日本赤十字社大阪支部（平成8・9年度）
 中地弘幸 神戸市消防局
 西村俊夫 近畿電波通信管理局（平成7年度）
 原口和夫 兵庫県阪神淡路大震災復興本部土木復興局復興対策室（現 土木部道路建設課高速道路室）
 広常秀人 大阪市立総合医療センター
 保田邦生 関西電力

追加委員（平成8年度以降）

田中重好 弘前大学人文学部
 柳原良造 ハイパーリサーチ株式会社
 三星昭宏 近畿大学理工学部土木工学科
 西村明儒 滋賀医科大学法医学教室
 伊永 勉 日本災害救援ボランティアネットワーク
 越智元郎 愛媛大学医学部附属病院救急部
 細川顕司 東京消防庁
 北原糸子 東洋大学社会学部
 平野 昌 三重県消防防災課
 中村 博 博報堂研究開発局
 河村忠男 中央復建コンサルタンツ
 立木茂雄 関西学院大学社会学部
 岩井 哲 京都大学防災研究所
 田中 聡 京都大学防災研究所
 草部文靖 大阪府消防防災安全課
 谷村泰生 東京海上火災保険

1.3 委員会開催状況

緊急対応分科会では3年間に総計16回の委員会を開催した。委員会の開催状況と話題提供の題目は以下に示す通りである。

第1回 平成7年 6月5日（月）18:00～20:30

【神戸市消防局の3日間】 神戸市消防局 中地弘幸

第2回 平成7年 8月10日（木）14:00～17:00

【（阪神・淡路大震災における）通信設備の被災状況と対策】 NTT 大森勝之

第3回 平成7年 10月27日（金）14:00～17:00

【日本赤十字社の緊急対応】

- (1) 「初動期の立ち上げ」 日本赤十字社 岡山県支部 清水俊行
- (2) 「被災者支援の実態」 大阪府支部 長尾清子
- (3) 「日赤のポテンシャル」 日赤本社 石塚善行

第4回 平成8年 2月23日（金）14:00～17:00

【死体検案の立場から】 兵庫県監察医（滋賀医科大学） 西村明儒

【建物被害と人的被害との関係】 大阪市立大学生生活科学部 宮野道雄

第5回 平成8年 4月19日（金）13:00～17:00

NTTトータル・オペレーションセンター見学

『阪神・淡路大震災における急性期の災害医療』 千里救命救急センター 甲斐達朗

『震災直後の看護行動』 大阪大学医学部 高橋章子

第6回 平成8年 6月21日 (金) 14:00~17:30

『阪神・淡路大震災における自衛隊の活動』 防衛庁防衛研究所 小村隆史

第7回 平成8年 8月23日 (金) 14:00~17:30

『阪神・淡路大震災における関西電力(株)の対応』 関西電力(株) 保田邦生

『阪神・淡路大震災における大阪ガス(株)の対応』 大阪ガス(株) 池島賢治

第8回 平成8年10月18日 (金) 14:00~17:30

『緊急対応機の交通問題』 京都大学工学研究科 中川 大

第9回 平成8年12月20日 (金)

『ボランティア』 日本災害救援ボランティアネットワーク 伊永 勉

第10回 平成9年2月21日 (金)

『被災者対応のエスノグラフィー』 (財)都市防災研究所 重川希志依

第11回 平成9年 4月18日 (金) 14:00~17:30

『心のケアをめぐる』 コーディネーター：大阪市立総合医療センター 広常秀人

神戸大学医学部 安 克昌

兵庫県精神保健協会 加藤 寛

第12回 平成9年 7月25日 (金) 14:00~17:30

『経済の復興をめぐる』 コーディネーター：京都大学防災研究所 河田恵昭

兵庫県土木復興局 本庄敬選

兵庫県阪神・淡路大震災復興本部 本庄孝志

第13回 平成9年 8月22日 (金) 14:00~17:30

『すまいの復興をめぐる』 コーディネーター：大阪市立大学 宮野道雄

(1)建物の応急被災度判定について 兵庫県都市住宅部 坂上憲一

(2)住宅の復興について 兵庫県都市住宅部 富岡敏典

第14回 平成9年10月24日 (金) 14:00~17:30

『危機管理下における意志決定について』 兵庫県生活文化部 武田政義

『コンビニのケーススタディ』 (株)博報堂 井徳正吾

第15回 平成9年12月19日 (金) 14:00~17:30

『阪神・淡路大震災で被災し、かけぬけ、創造的復興に取り組んでいるコープ神戸からの報告』

生活協同組合コープこうべ 増田大成

『阪神・淡路大震災後の生活復興支援策』 兵庫県生活文化部 小島 寛

第16回 平成10年 2月20日 (金) 14:00~17:30

『三年間の総括』 (出席者全員による討議)

1.4 報告書の構成と執筆者

本分科会の報告書は全7章構成であり、各章および節の執筆者は以下の通りである。

1. 緊急対応分科会がめざしたもの (京都大学防災研究所 林 春男)
2. 災害対応を考えるための理論的枠組み (京都大学防災研究所 林 春男)
3. 命を守るための対策：緊急対策
 - 3.1 死体検案活動の実際と問題点ならびに人的被害の発生とその要因分析
(滋賀医科大学 西村明儒)
 - 3.2 救護班活動の実態と防災対策上の問題点 (日本赤十字社大阪支部 河相憲良)
 - 3.3 災害医療活動の実態と防災対策上の問題点 (大阪府立千里救急救命センター 甲斐達朗)
 - 3.4 消防・救助活動の実態と防災対策上の問題点 (神戸市消防局 中地弘幸)

- 3.5 安否確認活動の実態とNTTのその後の対応 (NTT 大森勝之)
- 3.6 “Golden 72 Hours”に何をすべきか (京都大学防災研究所 林 春男)
- 4. 社会的フローを安定化する対策：応急対策
 - 4.1 ライフライン事業者の復旧活動の実態と防災対策上の問題点
 - 4.1.1 電力事業者 (関西電力 保田邦生)
 - 4.1.2 都市ガスの復旧活動の実態と防災対策上の問題点 (大阪ガス 池島賢治)
 - 4.2 道路交通障害の実態と防災対策上の問題点 (京都大学工学研究科 中川 大)
 - 4.3 自衛隊派遣の実態と防災対策上の問題点 (防衛庁防衛研究所 小村隆史)
 - 4.4 ボランティア活動の実態と防災対策上の問題点
 - 【NVN (西宮ボランティアネットワークの活動を検証する)】
 - (日本災害救援ボランティアネットワーク 伊永 勉)
 - 4.5 被災者の対応の実態と防災対策上の問題点 (都市防災研究所 重川希志依)
 - 4.6 被災地社会の成立 (京都大学防災研究所 林 春男)
- 5. 社会的ストックの再建のための対策：復旧・復興対策
 - 5.1 災害ストレスに対する「こころのケア」の実態と防災対策上の問題点
 - (大阪市立総合医療センター 広常秀人)
 - 5.2 「すまい」の復興に関する実態と防災対策上の問題点 (大阪市立大学 宮野道雄)
 - 5.3 個人世帯への経済的影響の実態と防災対策上の問題点 (京都大学防災研究所 河田恵昭)
 - 5.4 災害復興という新しい課題の創出 (京都大学防災研究所 林 春男)
- 6. 災害対策を推進するための意思決定のあり方
 - 6.1 我が国の災害報告様式の問題点－OASISとの比較－ (京都大学防災研究所 田中 聡)
 - 6.2 災害対応のためのロジスティクスの確立 (京都大学防災研究所 林 春男)
- 7. 阪神・淡路大震災によって得られた災害対応に関する教訓 (全員による討論)

1.5 謝辞

本分科会の運営にはすでに紹介した委員以外にも多くの方のご協力があったはじめて可能になりました。話題提供者者として震災対応の貴重な報告をいただいた各位、さらに本分科会の事務局として多大のご貢献をいただいた関西電力株式会社総務部庶務課防災担当のみなさんのご苦勞はこの研究会をここまで導いてくれました。最後に、一見土木とは無関係にみえる震災後の社会の対応に関して独立した分科会を設定し、自由な活動を許していただいた土木学会関西支部と土岐委員長を始めとする幹事会メンバー各位に深く謝意を表します。